

第20回 障害者芸術・文化祭「美術工芸作品公募展」

審査員講評

今年は、「絵画の部」「書道の部」「写真の部」「工芸・その他の部」の各部門を合わせて、448点の応募がありました。

「絵画の部」(279点)は、一つひとつの作品が個性的で、例年にも増してすぐれた作品が多く、充実した内容でした。受賞しなかった作品にも個性豊かで素晴らしい作品が多くあり、審査する側も大変力が入りました。好きなもの、好きなことを描いた作品にはやはり力があります。今後も描き続けていただきたいものです。広い展示会場を楽しむような作品づくりにもぜひ挑戦してみてください。

「書道の部」(60点)も、多くの魅力的で味のある力作が揃いました。已年ということもあり、大きく伸びやかな筆の作品が多い印象でした。回を重ねるごとに作品の質が高くなっています。どうしても大きい作品に目が行きがちですが、小さな画面に全力で向き合った作品にも心を打たれました。強い思いを込めた作品には人を引き付ける力があります。

「写真の部」(16点)は、今年も残念ながら出品点数が多くありませんでした。良い機材がなくても、今はスマートフォンでもよい写真は撮れます。世の中にある写真のスタイルにとらわれることなく、自由な撮り方、表現を期待しています。単に美しいだけでなく、自分の心に強く響くモチーフや風景を見つけて撮り続けてください。

「工芸・その他の部」(93点)は、多様な表現で楽しめる作品が多く見受けられました。対象に対する愛情の深さが最もよくあらわれる部門だと思います。丁寧に、心を込めて制作している姿が思い浮かびます。自分の好きにこだわって、じっくり時間をかけて取り組んだ作品には魅力がありました。これからも工夫を重ね、自分らしさを追求した作品づくりをこれからも続けてください。

今年度は、これまでで最も多い作品が出品されました。特に絵画部門は、出品数全体の約6割を占め、優れた作品も多く審査にも苦労しました。一方で、写真部門については出品数が昨年度よりも減少しており、より多くの方にチャレンジしていただきたいです。まずはスマートフォンのカメラを起動して、心の赴くままにシャッターを押してみられてはいかがでしょうか。

来年度も「美術工芸作品公募展」を、ここ県立美術館で開催する予定です。ぜひ多くの方に出品いただくとともに、より個性にあふれ、人の心を動かす作品を期待しています。

来年も皆さんからの出品を心よりお待ちしております！

第20回兵庫県障害者芸術・文化祭「美術工芸作品公募展」審査員(順不同)

WAKKUN (イラストレーター、絵本作家)

宮崎 みよし (美術家、みよしアートプランニング)

中澤 光昭 (兵庫県高等学校教育研究会書道部会元会長)

服部 正 (甲南大学文学部教授)

大槻 和浩 (神戸芸術工科大学特任教授、画家)